

連発注意お母さん

渡邊 慧大
わたなべ けいだい

ぼくは、お母さんにたくさん注意をされます。朝起きてから、

「ふとんをたたんで、時間を見て行動しなさい、ご飯を食べる時の姿勢が悪いよ、おはしの持ち方が変だよ、きちんとお茶わん持って、肘をつかない。」

学校から帰ってきたら、

「くつ下をぬいで手を洗いなさい、ランドセルを片づけて、宿題をやりなさい、おやつを食べる時はテーブルの上で食べなさい。」

寝る前は、

「もう8時だよ。歯みがきしたの？ ふとんを敷いたの？ 学校の準備は終わったの？」と言われる前にやっつてね。」

と、毎日の様にぼくはお母さんに注意をされます。

ある日、ぼくはお母さんの話を聞かなくなりまし。ぼくはぼくなり、一生けん命がんばっているのに毎日注意されてしまうからです。お母さんのことをむ視をしていました。お母さんのふとんをぐちゃぐちゃにした時もありました。

お母さんは、ぼくに注意するのをやめました。

ぼくは、ふと考えました。このままお母さんに注意をされる事や、できない事ばかりのダメダメ人間になってしまっ

ろくな事にならないのでは？

そして、お母さんは何でいつもぼくに注意をしていたのだろう？ お母さんはいつもぼくのことを一番に考えてくれてぼくが大人になった時、困らない様に注意をしてくれているのではないだろうか。

ぼくは、直ぐにむ視をやめました。そしてお母さんに、「ごめんさい。」

と言いました。お母さんは泣きながらぼくをだきしめました。お母さんにむ視をした理由を話したら、お母さんは、

「毎日うるさかったね。ごめんね。慧大の気持ちがとてもわかったよ。話してくれてありがとう。」

と言いました。

ぼくは、その日お母さんと一緒に寝ました。

ぼくのためにいつも注意をしてくれてありがとう。

ぼくのための、連発注意お母さんだとわかっていても、やっぱりいつもにこにこお母さんの方がいいです。

だからお母さん。これからは、お母さんから注意をされてもむ視をしないでお母さんの話を聞きます。いままで注意された事は、注意されない様にします。なので、いつも大好きなにこにこお母さんでいて下さい。